

時代を越えて受け継がれる「天一丸」

天一丸は不思議な韓方薬である。韓国では中国の漢医学を独自に発展させて体系化したものを韓医学と称し、韓医学の中心になっている生薬を素に作られる薬を韓方薬とよぶ。

天一丸はおよそ400年前、李王朝時代に朝鮮儒学の父と称された南冥曹植（ナンミョンジョシク）によって創られ、当時の製法そのままに彼の子孫によって代々受け継がれ現在に至っている。

成分は、山参（サンサム）、蔓人参、ヨモギ、センキュウ（葉）、胡麻、小麦からなるが、中でも山参が含まれていることが時代を越えて愛用されている所以であろう。

山参は山に自生する高麗人参で、紀元前から神秘の薬として珍重され、秦の始皇帝が不老長寿の薬として探し求めたことでも知られている。

その効能は、中国最古の薬物書「神農本草経」そして明の時代に李時珍が書いた「本草綱目」にも書かれている。

また韓国随一の名医と称されている許凌（ホジュン）が書いた「東医宝鑑」には、「高麗人参は、主に五臓の気が足りない時に使い、精神を安定させ、目を開き、記憶力をよくする」という記録がある。東医宝鑑は1610年に編纂され、2009年世界記憶遺産に指定された名著。

ドイツ振動医学的にみると、第1と第7チャクラを活性化させる反応があることから、天・地のエネルギーをよく取り込み、天・地・人一体へと導くパワーを感じさせる。

さらに私独自の筋肉反射テストを併用してみると、血液循環、抗酸化反応、抗腫瘍、生命エネルギー、自律神経、生殖機能、解毒、抗ウイルス、エネルギー産生など多岐にわたって効果的であることが推測される。

天一丸は、古に創られたものでありながら現代病を代表するさまざまな疾患を癒す幅広い働きがあることに驚く。

自然の力に満ちた生薬からなる天一丸は、穏やかでゆっくり身体を整えてくれる頼もしい存在である。

日本内科学会認定医
日本東洋医学会専門医
日本テレセラピー研究会会長
医学博士 堀田忠弘